

山崎 幸子

福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 助教

閉じこもり高齢者における家族関係を主とした心理社会的要因の解明

目的：閉じこもり高齢者の心理的脆弱性について解明することを目的とした。方法：予備調査にて、14項目から成る主観的な家族関係尺度素案を作成した。本調査は、東京都K区に在住する無作為に抽出した65～84歳の高齢者1,000人対し、家族関係尺度素案を含む心身の要因に関する郵送調査を実施した。その結果、分析対象者は男性284人（46.0%）、女性325人（52.6%）、平均年齢は 72.6 ± 5.1 歳、一人暮らしは133人（21.5%）、閉じこもりは33人（5.5%）であった。家族関係尺度は一因子構造が確認され、高い信頼性係数も確認された。閉じこもりは、WHO 5 $r=.232$ ($p<.001$)、情緒的孤独感 $r=.126$ ($p<.001$)、家族関係尺度 $r=.120$ ($p<.001$)などに関連した。考察：本研究により初めて、閉じこもりは情緒的な孤独を感じていること、家族関係を良好とは捉えていない可能性があることが示された。